

6月12日（土）から、安城市民ギャラリーで移動美術館が始まっています。安城市民ギャラリーは、安城市東部に位置する安城城址と安城城址公園に隣接しています。この一帯には、安城市歴史博物館、安祥公民館、安城市埋蔵文化財センターがあり、「安祥文化のさと」として、歴史と美術を楽しむ文化ゾーンとなっています。



↑安城市民ギャラリー外観

愛知県美術館のコレクションを、広く県民の皆様にご紹介する移動美術館は、今年で17年目にあたり、年に一度、県内各地で開催してきました。今年は、「近代絵画に見る人と自然」をテーマに、愛知ゆかりの作家を含む近代日本洋画から現代美術までの洋画、日本画、版画、彫刻の国内外の作品52点をご紹介します。（出品作品リストは、愛知県美術館ウェブサイトでご確認できます。）



↑ 展示会場入口

明治期に外光派として新しい絵画の作風を広めた黒田清輝や久米桂一郎といった近代日本洋画家たちを始め、愛知県ゆかりの伊藤廉、鬼頭鍋三郎、荻須高德などの洋画家たち、また、山本鼎や恩地孝四郎らを始めとする近代から現代に至る版画作品をご紹介します。今回の移動美術館では、版画作品を多く展示しています。これは、これまで安城市民ギャラリーに併設する創作実習室で、版画制作のワークショップが多く行われてきた経緯を踏まえたもので、普段から鑑賞や制作で市民ギャラリーを利用されている皆様に、版画作品により親しんでいただく機会になればと特集しました。また、日本画を紹介する会場では、安城市出身の石川英鳳を始め、中村正義、星野真吾など愛知ゆかりの日本画家を紹介しています。石川英鳳の作品の前では、多くの方が足を止めて話に花を咲かせている様子が見られまし

た。



↑ 展示室 A 海外作家の作品も展示



↑ 展示室 B 版画の様々な技法による作品を展示



↑ 展示室 C 愛知ゆかりの日本画家の作品を展示

展示期間中は、学校団体鑑賞会や展示室での展示解説会（ギャラリートーク）、子供から一般向けのワークショップなど様々な事業を行います（お問い合わせ：安城市教育委員会生涯学習課文化振興係 TEL（0566）75-1151）。先日の20日（日）には、隣接する歴史博物館のロビーで、オペラ歌手を招いてのピアノ伴奏によるコンサートが行われました。プッチーニのオペラ「蝶々夫人」からの曲目など、愛知県ご出身で国内外で大いに注目されているオペラ歌手による歌声に、実に200名を越える方が酔いしれました。その興奮冷めやらぬなか、聴衆の皆様には、展示室に足を運び作品を鑑賞していただきました。



↑ロビーコンサート（左）テノール宮崎智永（右）ソプラノ二宮咲子 ピアノ西尾由希 広々とした歴史博物館ロビーに美声が響き渡りました

また、展示会場の外には、出品作品の人気投票が行われています。鑑賞した後、どんな作品がお気に入りか、投票者の年代別のシールを貼って投票するものです。一番人気は、いまのところ、久米桂一郎《秋景》のようですが、愛知県ゆかりの鬼頭鍋三郎や石川英鳳の作品も健闘しており、どの作品が安城市民の皆様が一番のお気に入りになるのか最終日まで楽しみです。



↑久米桂一郎《秋景》（油彩 1892年）



↑お気に入りの作品の投票

まだ会場をご覧になられていないかたは、是非とも足をお運びいただき、お気に入りの作品を見つけていただければと思います。何度ご鑑賞いただいても無料です。皆様のご来場をお待ちしています。

(M.F.)